

### III 參考資料

# ご案内

詳細版 対象高校・大学向け H28.5

当法人(事業所)は、滋賀県による  
「高校・大学を対象とした発達障害早期支援モデル事業」  
を受託しております。  
いくつかの対象校から、  
具体的な事業内容についてご質問いただきました。  
このパンフレットでご紹介させていただきます。

## 事業対象校

\* 滋賀県の、大津および南部の福祉圏域(大津および草津・守山・栗東・野洲市)  
に所在する、全ての大学と私立高校(計13校)

綾羽高校、光泉高校、幸福の科学学園関西高校、  
滋賀短期大学附属高校、比叡山高校、立命館守山高校  
滋賀大学(大津キャンパス)、滋賀医科大学、  
滋賀短期大学、成安造形大学、びわこ成蹊スポーツ大学、  
立命館大学(びわこ・くさつキャンパス)、  
龍谷大学(瀬田キャンパス) [五十音順]



\* 当事者の住所地は、上記でなくとも構いません。

## 本事業における「当事者」について

\* 発達障害のある、もしくは、教職員の方がその可能性を感じる生徒・  
学生、を指します。

\* 診断の有無は問いません。

教職員の方がその疑いを持っておられるのみ、あるいは、本人に「何となく」の困り感があるのみ等の、いわゆる**グレーのケースも対象**です。

◎多くの調査が、全人口のうち3~10%の人が発達障害やその疑いがあること、また、そういった学生が学歴に関係なく幅広くいることを示唆しています。

## 事業目的

### 対象校が当事者への支援を高められる、および、 当事者が必要な支援を受けるための、一助となること。

進学・就職すると、たいいてい生活リズムや選択や人間関係などの幅が広がります。すると、既に問題が大きいケースのみならず、学校時代の「学力」や生活に一見問題ないケースや、あるいは、課題を抱えつつ何とか卒業できたケースが、休学・休職→中退・退職およびひきこもりや精神疾患につながっていく場合が、福祉・医療の分野で散見されています。せっかくがんばって進学・就職しても、その後に失敗して苦しくなる。こういった問題が大きくなる前の「早期」の段階で、気づき、必要な支援ができることが、当事業の目的です。

\* 各対象校の教職員の皆さまにとっては

⇒ 当事者への理解や支援力の向上や、それによる当事者以外の生徒への様々な影響の低減。

\* 各対象校に在籍する当事者の皆さまにとっては ⇒ 中退・就職浪人や就職後間も無くの退職の防止。

などに役立てばと思っております。

## 具体的な業務内容

次ページからの3種類があります。

将来的な一般事業化へ向けてのモデル事業です。つきましては、3種類以外にも当事業でお手伝いできそうなことは、気軽にお伝えください。柔軟に対応させていただければ、と思っております。

## 費用

全ての種類で業務量にかかわらず、全て**無料**です。(研修型の講師料等も無料)



## ご連絡・お問合せ先

\* 社会福祉法人しが夢翔会[しごうかい] 発達障害支援サポートセンター

**担当** 小崎(コザキ)・園田(ノダ)・小谷(コタニ)

**TEL** 077-534-4477 **FAX** 077-534-4479

(TEL・FAXともに、当法人事業所「ステップ広場ガル」との共有回線です。)

**住所** 大津市石山千町270-3 **メールアドレス** kozaki@shigamushoukai.or.jp

\* 滋賀県 健康医療福祉部 障害福祉課 社会活動係

**TEL** 077-528-3542

## 当事者の状態像の例(別添)

一口に「発達障害」といっても、実際の状態像はとても幅広いものです。別添資料では、様々な状態像を網羅的に取り上げてみました。少しでも引っかかる場所があれば、お気軽にご相談くださると良いか、と思います。

なお、資料上の表現の多くは、「問題」「課題」「苦手」として書いています。それを踏まえて、むしろその特性を生かして暮らしやすくするのが「支援」であり、表現としては不適切な部分もあります。また、厳密に医学的な診断基準だけでなく、様々な実態にも基づいて記入しています。教職員の方が実際にイメージして下さりやすいよう、意図的にそのような表現にしています。

# ①

# 校内型

<b>問題意識</b>	<p><u>当事者</u> 学校での学業や生活にしんどさを感じている。</p> <p><u>教職員</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本人の自覚は弱い、教職員としては心配</li><li>・本人に対してどのように指導したり、保護者とやりとりしたりしようか考えている。</li><li>・学校では対応が難しい場面がある。</li></ul> <p><u>保護者</u> (診断・告知の有無にかかわらず、) 家庭での関わりに難しさ・疑問・不安を抱えている。</p>
<b>事業内容</b>	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"><li>* 教職員の方との相談・面談や会議への参加。(日常的なちょっとしたこともお気軽に。)</li><li>* 教職員の方と当事者の面談等への同席。</li><li>* 学校における実際の様子を観察と、状態の評価。</li><li>* (当事者との個別面談(その内容を教職員の方と共有))</li><li>* (心理検査の実施)</li></ul>
<b>期待される効果</b>	<p>↓</p> <p><u>当事者</u> 学業成績や生活全体の質の向上。</p> <p><u>教職員</u> 理解や対応の向上。</p> <p><u>保護者</u> 不安・誤解の軽減や、本人への理解の向上</p>

## 参考

- \* 当センターから学校等に伺います。ご希望により、電話・メールや当法人事業所での相談も可能です。
- \* 文部科学省と厚生労働省の連名による事務連絡(平成24年4月18日)でも、教育と福祉の連携の推進が謳われています。また、今年度「障害者差別解消法」が施行され、学校現場でも「合理的配慮」が必要となりました。
- \* 在学中には大きな課題にならない場合でも、卒業を見据えて、在学時から適切な支援が受けられることで、卒業後に大いに能力を発揮できたり、過度の失敗なく過ごせたりする当事者が多くいます。

## 1-連携型

### 問題意識

- \*就職・進学先が決まらない。あるいは、すでに学校外の生活面ではつまづいている様子があり、そこからの学業への悪影響が感じられる。学校内での指導や努力だけではどうにもならない現状がある。
- \*進路は決まってはいるが、卒後の生活において、人間関係や事務的な手続きなど社会生活がスムーズにいきそうにないので今から心配。
- \*以上2点より、進路指導および卒後の生活において、何らかのサポート機関と連携あるいは接続する必要がある。
- \*しんどさがある、支援機関や医療機関につながると良い。
- \*卒後に向けて学外の支援者につながっておいた方が良い。
- \*中退する学生・生徒のその後が心配。
- \*休学する学生・生徒の生活が心配。



### 事業内容

#### どこに？

つなぎ先（連携機関）のうち、個々の学生に応じて適切な所の紹介。  
 福祉一般相談？ 福祉的就労事業？  
 就労訓練的事業？ 専門相談？ 就労系の相談？  
 若者相談？ ハローワーク？ 行政・保健所？  
 医療？ 進学先学校の担当部署？  
 ○○県・○○市付近で具体的に適切な場所は？

#### 円滑につなぐために

- 個々のつなぎ先や学生に応じて、伝達すべき必要な情報やつなぐ時期について相談。
- つながるにあたって、当事者や保護者の気持ち作りに必要なプロセス等の紹介。
- 気持ち作りの一環として、当センターによる学内での面談実施、あるいは先生等による面談への同席。
- 当事者や保護者がつながる先へ行く際の同行。



### 期待される効果

- つなぎ先として、適切な機関が選択できる。
- 適切なつなぎ方ができる。
- 福祉機関である当センターが、学校内で学生本人・保護者と会うことで、つながることへの気持ち面での抵抗が小さくなる。

### 参考

- \*適切な機関に適切な早めの時期に適切な形でつながれているかどうかで、初動や支援効果がかなり変わってきます。
- \*つながる前の当事者の気持ち作りができていないと、つながっても円滑に進まないことがあります。

# 2

# 連携・接続型

## 2-中学校からの引継ぎ型

問題意識	中学校から、当事者について必要な引継ぎを受けた方が良い。それに応じて、必要な準備をする。
事業内容	* 中学校からの引継ぎの場に同席。 * 中学校から必要な情報を聴取するなど、引継ぎに関する調整のお手伝い。
期待される効果	高校入学直後からの、学業や行動・生活面における問題、および、それによる他の学生への影響の低減。

## 3-進学先・就職先への引継ぎ型

問題意識	進学先・就職先に、当事者について必要な申し送りをした方が良い。
事業内容	* 進学先・就職先への申し送りの場に同席。 * 申し送り内容の整理や進学先・就職先の支援状況の問合せなど、申し送りに関する調整のお手伝い。
期待される効果	進学・就職直後からのトラブルやそこからの中退・退職の防止。

### 参考：併設のセンターのご紹介

#### 「自閉症・行動障害サポートセンター」

2014年度4月開始。大津福祉圏域において、「発達障害」「行動障害」児者等への支援について、①スーパーバイズ・アセスメント・共同支援、②研修講師・人材育成、③全国・県・市単位のネットワークへの参画、などの業務を実施する法人独自事業。

①の実績は、福祉事業所・学校 32ヶ所（+法人内部署 12ヶ所）で、対象ケース 60人強。[H28.4 現在]



## 1-教職員向け

事業内容	発達障害の理解。 支援・指導。事例検討。福祉等の制度理解や連携など。
期待される効果	教職員の理解や指導・支援の向上。



## 2-学生向け

事業内容	<p><u>全体向け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い学生に対して、発達障害ではなく人権学習等の名目で実施。</li> <li>必要な支援につながることで、楽になれる・より力を発揮できることの周知。</li> <li>必要な支援として本事業が校内等での相談や学校との連携に気軽に応じることも周知。</li> </ul> <p><u>当事者向け</u></p> <p>告知等が済んでいる当事者生徒に対して。</p>
------	--



期待される効果	<p><u>全体向け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い学生の理解促進。</li> <li>特に、以下のような生徒が、気軽に相談できる場所があることを知り、支援につながる契機になる。             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 発達障害だが自覚や困り感が無い。(ただ、上級学年・進学先・就職先で困りそう。)</li> <li>- 困り感はあるがその理由(発達障害等)が見えていない</li> <li>- 困り感があって診断を受けているが、学校にそれを開示できないでいるために、様々な面で苦労している。</li> </ul> </li> </ul> <p><u>当事者向け</u></p> <p>自己理解の促進による学業や生活面の向上。</p>
---------	---

## 3-保護者向け

事業内容	<p><u>全体向け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い保護者に対して、発達障害ではなく、それも踏まえた保護者研修やそれを切り口の一つにした子どもへの関わり方を名目に実施。</li> <li>必要な支援につながることで力を発揮できて、子どもの将来のためになること、また、必要な支援として本事業が校内等での相談や学校との連携に気軽に応じることも周知。</li> </ul> <p><u>当事者向け</u></p> <p>診断済みあるいは困り感のある保護者に対して。</p>
------	--



期待される効果	<p><u>全体向け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い保護者の理解促進。</li> <li>学校と連携して、困り感があるもしくは既に診断を受けている学生が、必要な支援機関につながることの促進。</li> <li>学生やその保護者自身の、障害受容および特性や障害への気づきの促進。それを契機とした支援へのつながり。</li> </ul> <p><u>当事者向け</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校や関係機関との連携を通して、学生の将来に良い影響があることの理解の促進。</li> <li>同じ学校の保護者同士のつながり強化による、家庭での支援の向上や保護者の気持ちの余裕。</li> </ul>
---------	--



## 【別添資料】 当事者の状態像の例

### 特に【自閉症】関係

社会性の弱さ	嘘がつけず、正直すぎる。ルール・指示を杓子定規に守ろうとして厳格すぎて、臨機応変で柔軟な対応は難しい。
	相手の表情あるいは場の雰囲気や“空気”が読めず、暗黙の了解やルールを理解しておらず、察することが難しいので、場にそぐわない発言が多く常識に乏しい。
	学生集団に入ろうとしない、あるいは、仲良く入ろうとはしているが入れないでいたり、トラブルが発生して、友達ができにくい。
	かなり丁寧に教示しても、理解が独特で難しそう。
	グループ学習が苦手。
コミュニケーションの苦手さ	寡黙。意図のない世間話などを嫌う。
	考えを表に出すことが苦手。
	逆に、多弁。人見知りせず、相手を選ばずに自分のペースで非常識に冗長に話す。
	一見すると標準的なコミュニケーションを取っているが、言い回しや相手の話す内容の理解が何だか独特。(例:形式ばった話し方。冗談が通じにくい。抑揚がない。)
	相手の言葉を字面どおりに解釈してしまうので、誤解が生じたりする。
	話を聞くことと自分の意見や気持ちを相手に伝える事が両立しにくく、会話のキャッチボールができない。
	一般的なクラス全体への指示・説明・板書・呼びかけには、反応していなかったり、伝わりにくかったり、誤解が多かったりする。(聞いていないように見える。)
	不自然に視線を合わせようとしめない。
時にはちょっとした挨拶等でも、コミュニケーションに不安が大きく、ひどく緊張し失敗しやすい。	
質問の意図を取り違えて、的の外れた回答になっている。	
「こだわり」	好きなこと(教科)はほとんど突き詰め、逆に興味のないこと(教科)は全くの無関心で、その差が非常に大きい。
	何か特定の独特の趣味に没頭して、学校生活にも支障が出ている。(例:電車、ビル、アニメ、など)
	備品の置き場所や自分の居る場所に、やたらとこだわりがあり、それが乱されるとひどく嫌がる。
	自分なりのやり方がある、それを崩しにくい。あるいは、やり方の実行に時間がかかって、周囲についていけない。
「想像力」の方向性	喜怒哀楽など感情の起伏はあるものの、それを抱くポイントは独特なことが多い。そのことで、周囲には急に怒り出す・興奮しだすように見えて、対人面でのトラブルにもつながっていく。
感覚面のしんどさ	季節に合わない服装。
	電車だったり特定の部屋だったり、苦手な場所があって生活に支障がでている。
	特定の刺激に、とても鋭敏に反応する、あるいは、その逆で鈍麻である。
	大きな教室では、視線や周囲の音が気になって講義に集中できない。
	多くの情報がある掲示板から、自分に必要な情報を取れない。

### 特に【ADHD】関係

不注意	注意が散りやすく、忘れ物・紛失・提出遅れ・中途半端にしてやり切れないことが多く、片付けができず、困っているよう。注意集中が続かないことで、授業についていけないことも。
	おっとり・ぼーっとして話を聞いていないように見えることがある。
	周りの様々な音などの情報に反応しやすく、注意が散漫で、人の話や取り組むべき課題等に集中して向き合えない。
	複数の物事を並行して進めることができずに困ったり、別のことを始めると前のことをすっかり忘れてしまう。約束忘れや遅刻も多い。
	全体的にはついてこれているが、異常に細かなミスが多い。
	注意集中が必要な課題を、意図的に避ける。



	中学・高校までは多動・衝動性が目立っていたが、大学では不注意が目立つ。
多動性	好奇心旺盛で、様々なことに興味が向く。
	活発で元気だが、着席や待つことは苦手な落ち着きがない。
	喋りだすと止まらない。
	ソワソワと落ち着かず、貧乏ゆすりや机を指先で叩く等が止められない。
衝動性	考えるよりも先に身体が動いているようで、大きなミスをすることも。
	エネルギーで行動力があるが、我慢が難しく、衝動的で突発的な行動も多い。(例:試験中に声が出てしまう。他人の会話や活動を邪魔してしまう。不用意な発言。突拍子もなく、話し始めたり話題が変わる。)
	感情のコントロールが難しく、イライラしやすかったり、いつまでも楽しそうにしている。
	余計なささいなことに気を取られてしまい、思考や行動がまとまらない。あるいは、些細なことでイライラしたりして、先に進まない。
	言いたいことを我慢してイライラする。

### 特に【LD】関係(学習上の基礎的能力のうち、特定のものの習得と使用に著しい困難)

特定の教科が異常に苦手。
日常生活で理解力に不安はないが、勉強だけができない。
文字が、ぼやけて反転して見えたりすることがあるよう。
本は普通に読めるのに、文字が極端に書けなかったり乱雑だったり、漢字など誤字脱字が異常に多く時間もかかる。(特に手書きの時)
国語力はあるのに、数学が極端に苦手。バイトでの簡単なお釣りの計算も何度も間違っ、クビになる。
同じ内容について説明する時、口頭に比べて筆記すると稚拙な表現になる。
音読すると、読み間違いが多く、飛ばしてしまう部分が頻回にある。
日本語の文字は普通に読めるのに、英語にはアルファベットを読むことにやたらと苦勞している。語学が苦手。
口頭で問題を読んでもらうと正しく答えられるが、自分で文章を読んで解答することができない。
計算問題は得意なのに、図形問題は解けない。
文字を読んで理解できるが、その情景は浮かんでいないよう。

### 特に【トゥレット障害・チック】関係

脈絡なく素早い運動の繰り返しがあり、自分では止められないでいる。あるいは、周囲が困っているが、注意しても止まない。(例:まばたき。顔をクシャッとしかめる。首を振る。肩をすくめる。全身をびくつかせる。跳びはねる。咳払い。鼻を鳴らす。奇声や「あ・」といった一瞬の声を発する。不適切な言葉を口走る。)
---

### 特に【吃音】関係

「どもり」があつて滑らかに喋れず、本人や周囲が困っている。
-------------------------------

### その他(複数の障害に共通、など)

自己理解・自己認識の弱さ	自分が置かれている状況が、直感的にはわからない。
	服の汚れや乱れに無頓着で、他人からどう見られているかを意識できていないよう。
	様々な問題に困っているようだが、その原因が分からないので余計に困っている。
	様々な問題やそれに対して周囲に助けてもらっている自覚がなく、周囲に不遜に振る舞ったり迷惑をかけたたり、辟易させている。
	将来への予測が難しく、就職活動の希望先が、あまりに現実的でない。あるいは、特定の業種や企業に固執して、それ以外に全く目が向かない。
空想	自分のやってしまったことの自覚が弱いので、非を認めず(認められず)、他人のせいにする。
	空想にふけつていて、授業や会話に集中できないことがある。

一点に集中。部分をよく見ることが全体は見えない。	話の断片に注目して、全体像(主旨)や大切な部分を見落としがち。
	授業中に教員のちょっとした言い間違いをいちいち指摘して、授業の進行を妨げる。
	話が主題からどんどんずれていき、ひどいときは話し終わると主題を覚えていない。
	テーブルクロスの歪みなど、わずかなことを修正したり、気にして指摘する。
物事を順序立てて考えるのが苦手。	優先順位がつけにくい、あるいは、将来への見通しが甘く過剰な量・質のものを深く考えずに選択しようとする。
	単純な暗記的なことは得意だが、意見や感想を自由に論述するのが苦手。
	自分で計画を立てるように求められると、何をしたいのかまったく分からない、あるいは、適切に相談できず自分なりにやるが間違いも多く失敗する。(例: 休み時間を過ごせない。休み時間を作らない等のために、異常に多く履修して、やりきれずに破綻する。履修登録ができない。就職活動等が円滑に進まない。)
	パッと見て分かる力は強いが、その論理を説明するのが難しい。
	“思いっつくまま”で筋道が見えにくい話し方になる。
	メールで届いた情報に、優先順位がつけられず、大事なことを見落とす。
処理はできるけど、その速度が遅い。	しっかりできるが、極端にゆっくりしていて、早くするように指導するとパニック状態になる。
一度に頭の中に入らない。	学業や日常生活に支障が出るくらいに、一度に複数のことを理解する・行うのが苦手。
	話を聞くことに集中していると、メモをとれない。よって、板書や議事録作成ができず、できても後から見返すと内容がよく分からない。
	メモを取ると、話がきけない。
記憶に関して	過去の嫌な記憶を突然思い出して、強く気分を害することがある。
過集中。興奮度合の調整が苦手。	一度の失敗から立ち直るのにかなりの時間を要する
	場の雰囲気を読めず、同じ質問を繰り返してしまう。
	一度集中すると、別の活動や発想に切り替わりにくい。テストで解けない問題があると、そこばかりに時間を使ってしまう。
	興奮してしまうと、静かな人の少ない場所に移動するまで、興奮が止まない。
「視覚優位」	話を聞くより、目で見た情報の方が理解しやすい。ただ、見た・経験した情報にこだわりすぎることもある。
具体的に強く、抽象に弱い。	単純な暗記など解答が1つに絞れるものは得意だが、その割に感想や論文の作成になると苦手。それ故に、卒業論文や実習や課題解決型の学習を完遂できない。
	「しっかりしなさい」等は何度言っても守らなかったのに、具体的に言われたことは実直すぎるくらいしっかり守る。(融通がきかない。)
情動伝染しやすい。	本人に関係ないことでも、周囲がイライラ・ニコニコしていると、本人もイライラ・ニコニコしてしまう。
時間感覚の弱さ。	時間配分が苦手。
応用が苦手。	中学・高校の成績は良かったのに、入学してから本人の一定の努力があるのに著しく成績が落ちた。
	できていたことなのに、場所や状況が変わると急にできなくなった。
不器用さ。	手先が不器用でマークシートの塗りつぶしにすら時間がかかったり、歩き方がぎこちない。
	身体の使い方が独特で、転倒などが多い。
その他複数の背景	食後の課業等に間に合わないくらいに、ゆっくりと食事している。
	様々な傾向が、試験期間や体調不良などでプレッシャーがかかると、余計ひどくなる。
	教室やスケジュールの急な変更や大人数の行事などに対して、不安感が強かったりパニック気味になりどうして良いか分からなくなる。
	特定の教職員に頻回に相談に来る。話の内容によっては興奮しやすい傾向。
	状況に応じた判断ができず、常識では考えがたい行動をとることが多い。
	効率よくできない。そのせいで、効率よくできているか、必要なことができているかの不安が大きい。不安になって、やるべきことを投げ出したり、やらなくて良いことに手を出す。
	「(自分は)何か人と違う」とか「本当の自分じゃない」など、他者との違いに違和感や困り感を持っている。
[100もしくは0]の極端な発想が多い。	

何度も同じ失敗を繰り返す。
新しい場所・もの・人・ことに強い不安を示し、「どうしてよいか分からない」となる。あるいは、逆に、ほとんど不安がなく、むしろ馴れ馴れしすぎる。
個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい。
わざわざ苦手な科目・業界に多く挑戦する。
昼夜逆転。朝起きれない。大学に入って、生活リズムの自由度が上がると、それがひどくなった・始まった。
相談場所や相手が分からない、分かっても相談できない、いざ相談しても説明が長く断片的で何に困っているか見えにくい。
卒論や就職活動での困難、例えば履歴書記入や面接が出てくると、急に学校生活がうまくいかなかなくなる。(そこで初めて相談してくる。)
特定の趣味につき込んだり、全体の配分がまずく、お金に困る。
教室の場所が分からず、科目ごとの教室移動が困難。(空間認知の問題)
どこで休憩し、どこで昼食を食べるのかに困っている。
不安感が強く、年齢の割に家族に相談して決めようとする面が強く、自分の意見が弱い。

## 上記への配慮が不十分なことに因る二次的なしんどさ

精神疾患や心因性の身体的不調
自尊心・自己肯定感が低く、疎外感を持つ。人とのやり取りに緊張感が高そう。
不登校・休学・中退や、引きこもりや近隣とのトラブル
しんどそう・不安そうで、教室にいることや登校自体が難しいことがある。
他者や在籍している学校への不信感
対人関係のトラブルを繰り返して、こじれていく。
問題が起こらないように先回りして配慮されてきたため、自分で考えて動いた社会経験が不足し、生活習慣や規範意識に課題がある。
一見口達者だったり社交的なために、周りの人間には、様々な問題の背景が本人の努力や意識不足に見えてしまう。